

# ご 挨拶

演劇映像学連携研究拠点

拠点リーダー 竹本 幹夫

この度、ウェブ版『ヨーロッパ世紀末転換期演劇論』を公開いたします。本稿は、西洋演劇関係の研究者コミュニティ有志の働きかけにより、本年度より開始した新たな翻訳プロジェクトの成果です。このプロジェクトは、昨年度まで本拠点が試行してきた翻訳研究を継承し、来年度よりは拠点設置のテーマ研究の一つとして再出発します。その成果報告の第1弾にあたる本稿は、19世紀末20世紀初頭のヨーロッパにおける演劇理論の中から、その存在を広く知られながらいまだに邦訳のない論文を選び出し、フランス・ドイツ・ロシア・イギリスおよびアメリカの各国ごとに、著作者別に翻訳紹介するものです。

もとより未完成の部分が多く残したのですが、これを閲覧された研究者各位には、忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。そうした貴重なご指摘を反映させていただくことにより、完成度の高い公共的な翻訳となることを庶幾して、あえてウェブ版という形をとることにしたものだからです。将来、機会があれば書物としての刊行をも念頭に置きつつ、当面はウェブ版の形で企画を継続して参ります。

また、本企画は著作権処理に万全を期してはおりますものの、いずれも原著者が故人となって久しいために、今回紹介する論考の中には、現在の著作権者との連絡が取れないままに、やむなく紹介させて頂いている例を若干含んでおります。そうしたものにつき、著作権者との連絡方をご存じの場合は、ご教示賜れば幸甚に存じます。

今後は欧米以外の演劇理論の翻訳や、日本の演劇理論及び戯曲の英訳も視野に入れて、活動を発展させていく所存です。研究者コミュニティ所属各位におかれましては、なにとぞよろしくご批正のほどを重ねてお願い申し上げます。末筆ながら、昨年夏より原稿依頼を開始するという切迫した状況にも関わらず、短時日の間に400字詰め原稿用紙にして実に700枚にも及ぶ翻訳原稿をものされた、研究協力者各位に心からの謝意を表するものです。